



## 学院写真・絵画コンテスト最優秀賞 「九州ルーテル学院の魅力」

～高校写真部生徒による写真～ 撮影者：高校2年3組 写真部 松岡 輝栞 (まつおかきり) さん  
高校2年4組 写真部 森永 りん (もりながりん) さん

### Contents

新年の挨拶(理事長、学院長) .....	2	中高からのお知らせ .....	6
創立記念礼拝・永年勤続表彰 .....	3	こども園からのお知らせ .....	7
クリスマス特集 .....	4	聖書の言葉/こひつじの会 .....	8
大学・黒髪乳児保育園からのお知らせ .....	5		



# 新年のご挨拶



理事長  
福田 邦子

## 創立100周年に思いを寄せて

1926年に、マーサー・B・エカード先生が九州女学院を創立されて、今年96年になります。4年後に創立100周年を迎えますが、この21世紀にエカード先生の創立の精神をどう形にするか大きな課題です。現在教職員をはじめ学校関係者の方々にご意見を伺うべくアンケートを取る等様々な取り組みを行っていますが、皆様から多くの貴重なご意見が寄せられています。それらのご意見を集約して、教育の在り方、キリスト教の伝え方から設備のリニューアルまでいろいろと検討を加えていきたいと思っています。少子化が進み生徒達の価値観が多様化するなか、私立の学校経営には様々な課題がありますが、創立100周年を一つの節目として九州ルーテル学院のさらなる飛躍を求めてオールルーテル学院で精進したいと思いますので、ご支援の程よろしく申し上げます。



学院長  
内村 公春

## 希望をもって

フリーアナウンサー笠井信輔さんによると、東日本大震災の被災者の方々は、当初『あの人が亡くなった、この人が行方不明になった』と失ったことを引き算するように数えていたが、ある時から「避難所であの人に会えた。こんな先生やボランティアに会えた」と足し算の考え、希望を見いだす考えを語る人が増え、そうした人々が復興の中心になったそうです。

一昨年からのコロナ禍は、日常を奪い社会を分断する状態を作り出しました。更に変異株の出現により、この状態の継続を覚悟する必要性も出てきました。でも歴史を振り返れば、こうしたパンデミックという試練が繰り返され、その度に人々は立ち上がって来たのです。それはどんな状況においても人々が希望を見出していくことでもあります。

苦難の中のヨブは最後に次のように語ります。「まことに神はこのようになさる。人間のために、二度でも三度でも。その魂を滅亡から呼び戻し、命の光に輝かせてくださる。」(ヨブ記 33.29 ~ 30)

私たちがまた希望を抱いて新しい年の歩みを始めましょう。





# 創立記念礼拝・永年勤続表彰



メッセージを伝える内村学院長



福田理事長より表彰を受ける  
大学 河田教授

10月1日(金)大学チャペルにて九州ルーテル学院創立95周年学院記念礼拝及び永年勤続表彰が行われました。内村院長より「あなたが遠くまで歩きたいならば」という演題で教職員にメッセージが伝えられたのち、永年勤続表彰者を代表し、大学の河田将一教授による代表挨拶が行われました。

## <以下挨拶抜粋>

95年目の創立記念日という自らの働きを振り返る重要な日に、永年勤続表彰の栄を賜りましたことに、心から御礼申し上げます。

教員自らが支援実践を教育や保健福祉の現場に示し続けてきたことは、本学での心理学、特別支援教育の学びの醍醐味が、現場の教師や支援者、そして子どもたちと保護者の皆様に確実に伝わることに繋がり、ひいては県内で支援者・教育者・保育者を志向する受験生に、本学に目を向けてもらえる一助となってきたのではないかと受け止めております。

私の専門の一つは特別支援教育ですが、特別な支援の必要な子どもたちの可能性を広げていくために、子どもたち自身に、そして本学で学ぶ学生にも持ち続けてほしいことに「やってみよう、やってみよう、やってみよう」の心構えがあります。

「やってみよう」の気持ちを高めるためには、「やってよかった」という気持ちを持つ(あるいは持つて)ことが重要で、そのためには、「わかった」「出来た」「楽しかった」「やり甲斐があった」「頑張った」という気持ちを育むアプローチが、まずは支援をする側に必要だと考えます。

20年の歩みを振り返るにあたって、あらためて自らの仕事へのモチベーションを振り返る中で、このことを自らに問い返したいと思います。

結びとなりましたが、区切りは次へのスタートであり、奢ることなくさらなる歩みを進めてまいりたいと存じますので、一層のご厚情とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

永年勤続表彰を受けた方々です。



### 写真上段 (向かって左から) 勤続20年者

坂口 裕俊 (高校・職員) 田仲 洋介 (中学・教員) 河田 将一 (大学・教員)  
立山 秀樹 (大学・職員) 石村 桂輔 (高校・教員) 松尾 睦寛 (中学・教員)  
大野 雅人 (高校・教員) 矢島 彰 (高校・教員) 西山 慎一郎 (高校・教員)

### 写真下段 (向かって左から) 勤続10年者

小野 秀二郎 (高校・職員) 水町 愛 (大学・教員) 吉村 裕子 (こども園・教員)  
奥山 記観夫 (高校・教員) 中村 真里 (中学・教員)



Merry Christmas

クリスマスイルミネーション点灯式



イエス・キリストの生誕を待ち望む期間（アドベント）に合わせて、毎年クリスマスイルミネーション点灯式を行っています。12月1日（水）夕刻にクリスマスイルミネーション点灯式が執り行われました。

今年は初の試みとして大学卒業生のご協力を頂き、点灯式当日はプロジェクションマッピングを実施しました。



当日の様子を動画にしましたので、ぜひQRコードよりご覧ください。

九州ルーテル学院大学



12月24日（金）に大学チャペルにて、大学クリスマス礼拝が行われました。

チャペル委員の学生たちが打合せやリハーサルを重ね準備したハンドベルの演奏や、聖歌隊による讃美が行われました。今年は、フルートやオーボエなどの管楽器の演奏も讃美に加わり、音楽に満ち溢れた素敵なクリスマス礼拝となりました。

崔チャプレンから「喜びの道を探せ」と題して説教が行われ、学生・教職員等、参加者約150名が心をひとつに全員でクリスマスの喜びをわかち合いました。



認定こども園ルーテル学院幼稚園



★年長組による聖劇



★ハンドベル

救い主イエス様のお誕生をお祝いするクリスマス。毎年、年長組の子どもたちが聖劇で「クリスマスの出来事」を伝えています。それぞれ年齢ごとにハンドベルや歌などでお祝いしました。

キャロリング・慈愛園訪問



★キャロリング

感染症拡大防止のため、音楽専攻の生徒を中心に学院内で実施しました。



★慈愛園訪問

中学生が慈愛園に訪問し、中学一年生が作成したクリスマスカードとPTAの「愛の一针運動（雑巾100枚）」を贈呈しました。

### 「障害者の生涯学習支援活動」にかかる 文部科学大臣表彰を3年連続で受賞しました



九州ルーテル学院大学金曜教室（部員：上村彩華部長以下学生28名、顧問：河田将一副学長、増本利信准教授）が、平成15（2003）年から18年間の継続的な支援活動について長年の活動が評価され、令和3（2021）年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。本学の受賞は、2019年度のダウン症支援部、2020年度の自閉症支援部の受賞に続き、3年連続となります。

金曜教室では、毎週金曜日の夕方に、発達障がいのある児童・生徒を対象として、個別に学習支援や余暇支援、就職準備に向けた支援、メンタルサポートを行っています。2003年の活動開始から延べ200名以上の児童生徒の支援を行い、継続希望者の大半が小学生から高校生までの間、継続して支援を受けています。また、児童生徒の支援にとどまらず、保護者への活動成果等の報告、保護者から学校・家庭での様

子の聴取などを行い、学生スタッフが保護者支援の一端も担っており、大学卒業後に障がい児・者の生涯にわたる学習等を支援する際の保護者・他機関との連携に資する支援活動も行っています。

表彰式は2021年12月7日に、文部科学省と本学をオンラインで結び開催されました。

### 本学学生が熊本県賞を受賞しました



大学コンソーシアム熊本地域創造部会主催、熊本県・熊本市共催による「課題解決のための政策アイデアコンテスト」における熊本県課題「令和2年7月豪雨の被災地域における地域の持続に必要な取組み」に応募した、人文

学科こども専攻児童教育コース4年坂上陽菜さんが、2021年11月13日（土）熊本大学で実施された発表会において、『文化財と教育で伝承する災害記憶 ～「ハート事業」の提案～』を発表し、熊本県賞（一席）を受賞しました。

薄れゆく災害記憶を文化財によって地域で伝承するとともに、地域の魅力を知り、地域に貢献する人材育成を持続的におこなう政策について提案し、その共感性（住民ニーズ）、実現かつ持続可能性、独創性、プレゼンテーション力が審査員から高く評価されました。

### 2021年度黒髪乳児保育園運動会

2021年度の運動会は、まん延防止等重点措置は解除されていましたが感染予防から昨年に引き続き例年とは違った形（クラス別・日程分散）で実施いたしました。

2・3歳児は、天気にも恵まれ白川河川敷グラウンドにて東京オリンピックからイメージを繋げかけっこ、ダンス、親子玉入れ等のプログラムを行いました。初めての屋外運動会でしたが、みんなで楽しい時間を過ごすことが出来ました。0・1歳児は、保護者人数を限定し3日間にわたり、保育室においてかけっこやリズム遊び、ふれあい遊び等のプログラムとし、保護者様にはお子さまの成長を身近で見ていただくことが出来ました。

コロナ禍において今までの「運動会」を見直す機会を与えられたと同時に、開催にあたり地域の方々や学院の皆様を支えられていることを強く感じた運動会となりました。

#### 0・1歳児運動会



（0歳児保育室）



#### 2・3歳児運動会



（白川河川敷グラウンド）

学院祭代替行事が  
行われました。



中高の学院祭は今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学内における代替行事として実施されました。

10月21日に中学、22日に高校で学年別実施されました。

委員会のプレゼンテーションやステージ発表が行われ、生徒たちは制限がある中でも学びや楽しさを感じているようでした。

中学体育大会について



10月22日、中学体育大会が実施されました。本来は5月に実施されるものでしたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い延期になり、今回短縮型ではあるものの何とか実施できることになりました。

秋晴れの中、生徒たちは生き活きと楽しんでいました。大縄跳びや台風の目、クラス対抗リレーでは、クラスのまとまりが見えました。綱引きでは、男子・女子に分かれて一所懸命頑張っていました。最後は団対抗リレーの盛り上がりの中、終了しました。

初めての赤・黄・青の3団構成となりましたが、大きなトラブルもなく実施ができ、生徒たちの笑顔が溢れる良い大会となりました。

高校では「地域課題解決プロジェクト」・「アントレプレナーシップ育成講座」を行っています。



高校では昨年度から「地域課題解決プロジェクト」、今年度から「アントレプレナーシップ（起業家精神）育成講座」を行っています。

前者は高校生の感覚を生かしながら、地域課題解決のプロセスに必要な知識を、実践を通して学ぶ課題解決型学習で、本校高校生が地域住民とのワークショップなどを通して地域が抱える課題解決に何が必要かを考えて実施しています。

後者は、自分が社会に対してどう貢献できるかを考え、「個人から社会」へとアプローチして自分の専門性や居場所を発見することを目的とするプログラムです。生きる力、そして学びのその先を見据えた活動を展開しています。

森永さん、フラッグフットボールの日本代表に

世界選手権に向けて  
頑張ってください！



中学2年生の森永瑚雪さんが、フラッグフットボールの女子日本代表に選出されました。

フラッグフットボールは、アメリカンフットボールに似た競技で、身体接触禁止やタックルの代わりにフラッグを奪うことで攻撃を止めるなどの特徴があります。ご活躍を期待しています。

子ども祝福式  
収穫感謝礼拝



こども園では、毎日子どもたちと共に礼拝の時間を過ごしています。

11月の礼拝では、子ども祝福式と収穫感謝礼拝がおこなわれました。子ども祝福式では、生命を与え守ってくださる神様に感謝し、これからも神様の恵みとお守りの中で成長できるように子どもたち一人ひとりを祝福していただきました。

収穫感謝では、子どもたちが野菜や果物を持ち寄って礼拝が行われます。コロナ禍ということもあり、昨年に引き続き施設等の訪問はできませんでしたが、学院内のお世話になっている方々のところへ、野菜や果物をお届けしました。



いつもありがとうございます!!



みそ作り



年長組の子どもたちが、みそ作りを体験しました。給食室の先生方に指導してもらい、初めての体験に真剣に取り組んでいました。

現在、「おいしくな〜れ♪」と熟成中です。添加物は一切入っていない大豆と塩と麴だけのお味噌です。どんな味になるか楽しみです(∩o∩)



おいしくな〜れ♪

こひつじの会

～未就園のお子様と保護者の楽しい子育てサークルです～



親子でリズム遊び(さくらんぼリズム)や製作、おはなし会による絵本の読み聞かせなどをして楽しんでいます。美味しい手作りのおやつも準備しています。

家庭の中だけで子育てをしている保護者の方の中には、心配なこと・不安を感じている方もいます。親子で安心して楽しく過ごせる時間を持っていただき、一緒に子育てについて考えたり、保護者の方に寄り添った活動をしていきたいと思っています。



大学チャプレン  
崔 大凡

## 聖書の言葉



「モーセは死んだとき百二十歳であったが、目はかすまず、活力もうせてはいなかった。」  
(申命記 34 章 7 節)

旧約聖書の申命記の最後のページに一人の英雄の死が記録されています。抑圧と虐げに苦しまれていた民をエジプトから導き出した先駆者であり、「十戒」によって神に対する戒めと道徳律を完成した預言者、様々な困難の中であらゆるしるしと奇跡を通して民を導いた指導者です。旧約聖書の最初の五つの書物を「モーセ五書」と呼ぶほど、聖書が示す英雄の英雄です。もちろん神無しのモーセは考えられません。聖書はただ人間的に優れて、偉大な人物を記しているのではなく、神に選ばれ、用いられた人物を「神の人」として指し示しているのです。モーセは神によって指導者であり、預言者、英雄です。もし神無しのモーセだったなら、見捨てられた王子、殺人者、逃亡者、逃れて羊飼いくらいの人のはずです。この世界に大きな業を残したモーセは神と出会い、従い続けたからこそ英雄なのです。

冒頭に示した言葉は、数々の業を後ろに、モーセの死に対する記録の一部です。神が示した地に向かって民を出発させ、試練と彷徨はありましたが、約束の地カナンを目の前に、あと川一つ渡れば入れるところまで民を導いたモーセですが、念願の地には入れず死を迎えたモーセです。それも神がモーセを「そこまで」とされたからです。

モーセはそのときまで、「目はかすまず」、「活力もうせてはいなかった」と記されています。これも、ただモーセが特別で強い人であったことを表す記録とは思えませ

ん。「そこまで」神が共におられたモーセだからであり、「使命」を授かっていたモーセだから、死ぬまで力はうせなかったのです。「使命」は果たすべきことであると同時に、生きる力でもあります。

「使命」と聞くと、この学院の初代院長エカード先生の幼い頃の逸話を思い出します。エカード先生の母アイダは幼いマーサー(エカード先生)に命の尊さを教えました。冬の寒い朝、隣の家を庭に真っ赤なバラが咲いているのを見て、マーサーは母親に「バラは寒いでしょうね」と聞いたところ、母アイダは「いいえ、バラは寒くありません。使命で咲いているのですから」と答えた話です。マーサーの心に深く刻みつけられたこの言葉と想いは、やがてマーサーを「使命」を果たす人にさせたことでしょう。

人は老いと衰えを負う者です。その前に試練と困難によって弱くもなり、また未来に対して恐れを負う者です。しかし「使命」を受けた者はそれを果たすまで、ただ恐れ、ただ弱まるだけの存在にはなりません。「使命」自体が、生きる力、生かす力でもあるからです。

この地に建てられていよいよ96年を迎えようとするこの学院も、「使命」あつての私立学校、キリスト教学校です。時代の大変さの中にも前に進む学院でありますように。モーセの続きもそうであったように、次の世代の人々がますます集まる学院となりますように。

## こひつじの会のご案内

未就園のお子様と保護者の楽しい子育てサークルです

今後の日程 **2/22**

時間: 10:00 ~ 11:00

費用: 年間保険料(初回) 200円

おやつ代(毎回) 100円

※事前予約が必要となりますので、園までご連絡ください。  
コロナウイルス感染症拡大の状況により中止とする可能性があります。  
開催の有無についてはこども園HPをご確認ください。

TEL/096-343-3968



製作やリズム遊びで  
あそぼう♪



**Luther**  
九州ルーテル学院報  
No.19

発行 学校法人 九州ルーテル学院  
発行日 2022年1月19日  
編集 九州ルーテル学院広報委員会  
印刷 株式会社 河田印刷

ご意見・ご感想は学院広報委員会まで  
〒860-8520  
熊本市中央区黒髪3-12-16  
TEL.096-343-3111  
shomu@klc.ac.jp

感恩奉仕  
~Gratitude and service~